

小国愛育む空間 日本一に

熊本高専八代チームがデザイン

全国の高専生がデザイン力を競うコンテスト「デザコン2025」の空間デザイン部門で、熊本高専八代キャンパス（八代市）の建築社会デザイン工学科5年生のチームが最優秀賞に選ばれた。小国町の放課後児童クラブを想定し、子どもが地元への愛着を育む空間を提案した。



「デザコン2025」の空間デザイン部門で最優秀賞に選ばれた熊本高専八代キャンパスの学生とイメージ模型＝25日、小国町

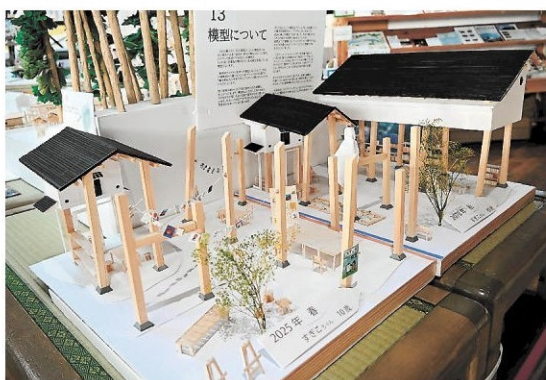
児童クラブ構想 小国杉触れる場を

空間デザイン部門には全国から110作品の応募があった。高専八代チームは説明資料による予選と、模型を使ったプレゼンテーションで競う10チームの本選を勝ち抜いた。

メンバーは江藤直太郎さん、田中丈裕さん、徳本豪海さん、光永愛実さんの4人。小国町を舞台に選んだのは、

地元出身の江藤さんの提案だった。若者の流出や林業の後継者不足といった課題を踏まえ、子どもが遊びながら特産の小国杉に触れる場を提案した。

作品では、小国小近くの公園や空き地を活用し、放課後児童クラブと子どもたちが遊



ぶスペースを構想。森の風景に着想を得て、長さの異なる小国杉の柱を格子状に配置した。児童クラブの1階はガラス張りにし、子どもたちの様子が分かるようにした。

コンテストの審査では、「実現可能性が高い」「生活に溶け込んだデザイン」と評価されたという。

4人は25日、小国町の道の駅小国ゆうステーションで発表会を開き、町民ら約30人が提案を聞いた。4人は「子どもが町に愛着を持つきっかけをつくり、還元してもらいう仕組みを設計した。自分たちの原点になる制作になった」と達成感をかみしめていた。

（田代智也）



熊本高専八代キャンパスの学生が制作した模型。長さの異なる柱を格子状に置き、小国杉の森をイメージした空間を提案した